

1月例会は『丘の上の本屋さん』

1月23日(木)、イタリアの美しい村でのハートウォーミングな物語

◇新年のあいさつ

2025年 あけまして おめでとうございます

今年加古川シネマクラブは設立2002年から23年を迎えます。「東播磨の地域に良い映画を」と2か月に1回の例会を続けてきました。たくさんの出会いと別れがありましたが、続けることが大切だと思っています。去年は会員のみなさんから切手・封筒・クリップペンをいただきました。ありがとうございます。

今年も「良質な映画上映」をしていくため、一緒に会員を増やし、ともに笑い・涙し、映画を楽しみましょう。

例会のお知らせ

■名称／第133例会『丘の上の本屋さん』

■日時／2025年1月23日(木)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／『丘の上の本屋さん』

■監督・脚本／クラウディオ・ロッシ・マッシミ

■出演／レモ・ジローネ、ディディー・ローレンツ・チュンプ、コッラード・フォルトゥーナ、モーニ・オヴァニア

■データ／2021年、イタリア、84分

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■ストーリー／老人と少年の交流を描いたハートウォーミングな物語。イタリアの風光明媚な丘陵地帯を見下ろす丘の上の小さな古書店。訪れる風変りな客たちを温かく迎え入れるこの店は、名優レモ・ジローネが演じるリベロというおじいさんが店主をしており、街のちょっとしたオアシス的な存在でもある。ある日、店の外で本を眺める移民の少年エシエンに



声を掛けたリベロは、好奇心旺盛なエシエンに、コミックから児童文学、中編小説、長編大作、さらに専門書まで次々と店の本を貸し与えていく。エシエンから感想を聞きながら、様々な知識やものの見方や考え方など、リベロはジャンルを超えて叡智を授ける。そしてイタリア語で「自由(Libero)」を意味する自身の名のとおり、エシエンに自由であること、誰もが幸せになる権利を持つことを伝えていくのだった。

イタリアの最も美しい村のひとつ、チヴィテッラ・デル・トロンツの絶景や、古書店に集まってくるユーモラスで個性あふれる人々と繰り返される日々の暮らしなど、小さな幸福がスクリーンに繰り返される。

私の映画KAN別編 ミュージカルと講談「龍をあむ」

「龍をあむ～水をもとめて!稲美町を潤す先人の力～」

稲美町の歴史に基づいた民間主導の疎水事業を題材とした物語「龍をあむ」をミュージカルと講談で鑑賞しました。

かつての稲美町は、深刻な水不足に悩まされ、人々は苦しい生活をしていました。1700年代半ばに疎水事業の計画が起こったけれども、2度も断念せざるをえませんでした。そして、明治になり、租税に苦しんでいた人たちが一致団結して疎水工事をやり遂げました。疎水が開通した時、人々は「水がきたぞー」と叫びました。まさしく、六甲山系の水が龍のごとく流れてきたのでしょう。

疎水の第一の成果としては、それまで畑1反当り収穫麦約70kgだったのが、水田になったことで1反当り約200kgに増えたこと。第二の成果としては、土地の実価は1反平均4円であったが、一躍跳ね上がって平均158円になったこと。「それまでは、水不足のために困難を極めていた各村が、疎水の完成によって驚異的に田畑を改良することができ、生活の安定に向かうことができたのであった。当時、この疎水事業のために努力された先駆者の偉業は、永遠に忘れることのできないものである。」(「温故知新」より)

史実を観客に伝えるだけでなく、登場人物の心情を声や動きで表現してくれました。村民はこんな葛藤があったんや、くじけるときもある、でも「未来」という目的のために励ましあったんや、言葉では言い表せないくらいの心情を感じることができました。また、この文章を書くために、資料や本を読み直しました。それも私の成果です。(幸)

前回の例会報告

11月22日(金)の11月例会では、広島県尾道で昔ながらの豆腐屋を営む職人氣質の父と頑固な娘の心温まる日常とそれぞれの新しい出会いを描いたヒューマンドラマ『高野(たかの)豆腐店の春』を鑑賞しました。

感想52名(とても良かった35名、良かった15名、不記入2名)。「幸福を感じることでできる心温まるドラマでした」、「舞台である尾道の街の風景が行きたくなるくらいよかった」、「ゆっくりとしたテンポを含め、なつかしい昭和を思わせる作品で安心して鑑賞できた」、「不器用ながら一生懸命生きる大切さを学びました」、「久しぶりに善人ばかりの登場よかった」、「さりげない日常の大切さも描かれていてとてもいい作品でした」、「藤竜也さんの演技は見事でした」、「メンデルスゾーンの選曲もバッチリでした」など、多くの感想が寄せられました。

参加会員86名(新入会員3名)、明石シネマクラブから12名参加。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/第87回例会『83歳の優しいスパイ』(2020年、チリ・アメリカ・ドイツ・オランダ・スペイン合作、89分)

■監督/マイテ・アルベルディ(チリ人女性のドキュメンタリー作家)

■ジャンル/ドキュメンタリー

■解説/妻を亡くしたばかりで、新たな生きがいを探していた83歳の男性セルヒオが、入居者への虐待を疑う探偵事務所に雇われ、老人ホームに潜入する。依頼人は母が虐待されているのではないかという疑念から、毎日、ホームでの生活の様子を誰にも気づかれずに報告してほしいという調査を要望。セルヒオはスパイとなって老人ホームに「入居」するが…。誰からも好かれる心優しいセルヒオは、調査を行うかたわら、いつしか、悩み多き入居者たちの良き相談相手となっていく。



意外な展開が評判を呼びアカデミー長編ドキュメンタリー賞にもノミネートされたハートウォーミング・ドキュメンタリー。

■日時/2月13日(木) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスパア明石9階子午線ホール(JR明石駅徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 126人(11月22日現在)